

木の日研修「東京水道水源林と多摩川水源地の山々」

【タイトル】 東京水道水源林と多摩川水源地の山々

【開催日】 2019年2月7日(木)

【開催場所】 水道橋 TJ ビル 202号室

【主催者】 森林インストラクター東京会(FIT28 にわとこ会)

【講師】 奥山達雄さん(東京都水道局水源管理事務所)

【一文紹介】 東京都水道局と東京水道水源林の山の管理について

【公開記事】

■東京都水道局のしごと

- ①水源管理事務所での水道水源林の管理
- ②小河内貯水池管理事務所での小河内貯水池の管理
- ③羽村取水管理事務所での羽村堰・村山山口貯水池の管理
- ④浄水管理事務所や支所、営業所での浄水場から水道管を通過して各家庭の蛇口までの管理

■水源林のはたらき

「森は緑のダム」は誤解で、水を貯めるだけだったら、コンクリート張りの方が水が溜まる。ただし水源林があると水をゆっくり流し、洪水防止と渇水防止の役目を果たす。

その他に土砂流出防止や水質浄化、二酸化炭素の固定、生物多様性への貢献、木材資源の供給などがある。

■東京水道水源林とは

東京水道水源林は、多摩川流域(羽村堰上流)の49%、23,719haを占める。

東京都奥多摩町(全体の約半分を占める)、山梨県小菅村、丹波山村、甲州市にまたがる。標高は400m~2,109m(唐松尾山)である。

1899年(明治32年)に多摩川の濁りが問題となった。原因は水源地の山々がハゲ山状態だった為、本多静六に委嘱して水源林の経営に着手した。

■東京都水道局による山づくり

(1)山づくりの工夫

明治時代と昭和40年代の2つが植林のピークとなっている。現況の森林の内訳は

- ①複層林更新型森林(人工林。若返りを繰り返す森林。1ha辺り1,000本)11%
- ②天然林誘導型森林(人工林。恒久的に安定した森林)16%
- ③天然林(保護、監視)70%となっている。

戦前に植えられた林は混んだ状態なので、年輪は密だが、下草が生えず、広葉樹も育たず、災害にも弱い。

戦後の方は間隔を空けて植えたので、太い木で、広葉樹も育ち、災害にも強い。育ったヒノキの下にヒノキを植えても生育が悪い。

皆伐して植えた方が育ちが良い。いきなりヒノキを植えると風害や干害にやられるので3年位経ったカラマツを傘にして、植えると育ちが良い。カラマツの方が生長が早い。

(2)森林被害とのたたかい

平成20年頃からクマ剥ぎの被害が多くなった(形成層を剥ぐため樹木が枯死)⇒わら縄等で幹をガード。

シカ食害による樹木の剥皮、林床植生(2m以下)の消滅⇒シカ柵、単木ネット、捕獲など。

(3)基盤整備

林道整備(12路線、76km)、歩道整備(286路線、814km。登山道を含む)、乗用モノレール(10路線、19km。林業従事者が乗る)

(4)その他

復旧治山工事(土砂崩れの復旧など)、予防治山工事(落石防止柵工など)、民有林の荒廃対策としての民有林購入(55件、2,089ha)、

多摩川水源森林隊(水道局が募集した民有林を整備する団体で間伐などを行う)

■水道水源林にかかわる人々

東京都水道局の職員は約 3,000 人(林業職、土木職、事務職)、下水道局の職員は約 1,000 人。

他には東京水道サービスの社員、造林業者、土木業者、森林組合職員など

■民有林購入事業とそこから見えてくる多摩川水源地の山々の現状

山の境界(あるいは住所)が分からない所有者が多い⇒航空写真、目標物を手がかりに現地を視察する。境界線は密に木が植えられていたり 2 列に植えられている所が多い。

原野商法で区画売りされた所もある⇒所有者が分からず、手がつけられない。

手放せるなら手放したい所有者も多い。都行造林は愛情がこもっていない。思いを込めて丁寧に木が植えられている山もある。

■最後に

高いと思っていた水道料金ですが、水を確保する為に水道局を始め関係の方々が色々と苦勞して作業されているのに使われていることを知り、決して高くないと思いました。

【報告者名】(28 年) 鍛冶健二郎

【参加者数】22 名(内訳:FIT21 名)

